

令和7年度

講義概要

(シラバス)

長野県福祉大学校
介護福祉学科

目 次

教科目及び目的	・ ・ ・ ・ ・	1
教科目進度表	・ ・ ・ ・ ・	2
社会の理解	・ ・ ・ ・ ・	3
介護の基本 A	・ ・ ・ ・ ・	4
介護の基本 B	・ ・ ・ ・ ・	5
介護の基本 C	・ ・ ・ ・ ・	8
コミュニケーション技術	・ ・ ・ ・ ・	9
生活支援技術 A	・ ・ ・ ・ ・	1 1
生活支援技術 B	・ ・ ・ ・ ・	1 3
生活支援技術 C	・ ・ ・ ・ ・	1 5
生活支援技術 D	・ ・ ・ ・ ・	1 8
介護過程 A	・ ・ ・ ・ ・	1 9
介護過程 B	・ ・ ・ ・ ・	2 0
介護過程 C	・ ・ ・ ・ ・	2 1
介護総合演習	・ ・ ・ ・ ・	2 2
介護実習	・ ・ ・ ・ ・	2 4
こころとからだのしくみ	・ ・ ・ ・ ・	2 5
発達と老化の理解	・ ・ ・ ・ ・	2 7
認知症の理解	・ ・ ・ ・ ・	2 8
障害の理解	・ ・ ・ ・ ・	3 0
医療的ケア I	・ ・ ・ ・ ・	3 1
医療的ケア II	・ ・ ・ ・ ・	3 2
医療的ケア III	・ ・ ・ ・ ・	3 3
医療的ケア IV	・ ・ ・ ・ ・	3 4

教科目及び目的

領域	教 科 目		単位数	目 的
人間と社会	社会の理解	講義	2	生活の基本となる家族、組織、社会の概念を理解し、社会福祉に関連した諸制度や基本的な知識を学ぶ。
介護	介護の基本A	講義	2	介護の基本となる理念を学び、自立支援介護の基盤となる知識、技術を習得する。また介護実践における安全、リスクマネジメントについて理解する。
	介護の基本B	演習	4	
	介護の基本C	講義	2	
	コミュニケーション技術	演習	2	介護を必要とする人の障害特性を理解し、対象者や家族とのコミュニケーションの意義や技法、チームにおけるコミュニケーションについて理解する。
	生活支援技術A	講義	3	介護を必要とする人の障害特性や生活歴を理解し、障害特性に応じた本人主体の生活が継続できるよう、知識と技術を身に着ける。ICFの視点や根拠に基づいた介護実践について理解を深める。
	生活支援技術B	演習	4	
	生活支援技術C	演習	3	
	生活支援技術D	実習	1	
	介護過程A	講義	2	本人の望む生活の実現に向けて、介護過程の意義・目的及び一連のプロセスについて基礎的な学びを深める。その上で個別の事例を通じて、対象者の状態に応じた介護過程の展開を行い、意義や方法を理解する
	介護過程B	演習	1	
	介護過程C	演習	3	
	介護総合演習	演習	2	各教科で学ぶ知識や技術を統合する。また介護実践の科学的探究を通して学びを深める。
	介護実習	実習	5	実習を通して、個別ケア、地域生活支援、多職種協働介護過程の展開といった介護実践力を身につける。
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	講義	2	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能を理解する。
		演習	1	
	発達と老化の理解	講義	2	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を理解する。
	認知症の理解	講義	2	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアを理解する。
		演習	1	
	障害の理解	演習	1	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域を含めた周囲の環境への支援を理解する。
医療的ケア	医療的ケア I	講義	1	医療的ケア（喀痰吸引と経管栄養）について背景の理解や個人の尊厳を守り、安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
	医療的ケア II	講義	2	
	医療的ケア III	講義	2	
	医療的ケア IV	講義	1	
合 計			51	

教 科 目 進 度 表

領域	科目		単 位 数	時 間 数	前 期				夏季 休暇		後 期							
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
人間と社会	社会の理解	講義	2	30	_____（1 週 2 時間）													
介護	介護の基本 A	講義	2	30	_____（1 週 2 時間）													
	介護の基本 B	演習	4	120	_____（1 週 4 時間）													
	介護の基本 C	講義	2	30	_____（1 週 2 時間）													
	コミュニケーション技術	演習	2	60	_____（1 週 4 時間）													
	生活支援技術 A	講義	3	45	_____（1 週 4 時間）													
	生活支援技術 B	演習	4	120	_____（1 週 6 時間）													
	生活支援技術 C	演習	3	90	_____（1 週 4 時間）													
	生活支援技術 D	実習	1	45	_____（1 週 4 時間）													
	介護過程 A	講義	2	30	_____（1 週 4 時間）													
	介護過程 B	演習	1	30	_____（1 週 4 時間）													
	介護過程 C	演習	3	90	_____（1 週 32 時間）													
	介護総合演習	演習	2	60	_____（実習前後）													
	介護実習	実習	5	225	実習 1 （57）： 高齢者（18） 地域生活支援（39） 実習 2（168）： 施設（76） 総合（92）													
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	講義	2	30	_____（1 週 4 時間）													
		演習	1	30														
	発達と老化の理解	講義	2	30	_____（2 週 4 時間）													
	認知症の理解	講義	2	30	_____（1 週 4 時間）													
		演習	1	30														
障害の理解	演習	1	30	_____（1 週 2 時間）														
医 療 的 ケ ア	医療的ケアⅠ	講義	1	15	_____（1 週 2 時間）													
	医療的ケアⅡ	講義	2	30	_____（1 週 2 時間）													
	医療的ケアⅢ	講義	2	30	_____（1 週 2 時間）													
	医療的ケアⅣ	講義	1	15	_____（1 週 8 時間）													
合 計			51	1275														

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
社会の理解	2	30	講義	必修	1年	通年	林 義也
【授業の概要】 生活の基本となる、家族、社会、組織地域社会の概念を理解する。その上で、生活支援のための制度、施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉制度やその他介護実践に関連する諸制度について学ぶ。レジュメ、授業資料に沿って講義形式にて授業を進めていく。							
【学習到達目標】 1 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。 2 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解する。 3 わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。 4 高齢者福祉の基本的な仕組みと介護保険制度の内容及び、障害者福祉制度の基本的仕組みと障害者総合支援法の内容について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。 5 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方と仕組みの基礎的知識を習得する。							
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況							
【テキスト（教科書）・参考図書】 1 テキスト（教科書） 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 （中央法規） 2 参考図書							
【実務経験】 社会福祉士、介護支援専門員として障害者施設、高齢者施設での実務経験あり。							
教 育 内 容	回数	授業内容	各授業のねらい			備考	
	1	生活と社会福祉	個人、家族、社会の単位で人間を捉え、人間と社会の関わりについて理解する。				
	2	社会保障の基礎的理解	社会保障制度の概要、基本理念、歴史、変遷について理解する。				
	3	地域共生社会に向けた制度や施策	地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方や、制度、施策について理解する。				
	4	高齢者福祉と介護保険制度の基礎的理解①	高齢者福祉及び介護保険制度成立の背景や目的について理解する。				
	5	高齢者福祉と介護保険制度の基礎的理解②	高齢者福祉制度及び介護保険制度の基本的な仕組みや運用について理解する。				
	6	高齢者福祉と介護保険制度の基礎的理解③	高齢者福祉制度及び介護保険制度の対象や種類、サービスの内容について理解する。				
	7	障害者総合支援法の基礎的理解	障害者の自立および制度創設の目的と動向について理解する。				
	8	障害者福祉及び障害者総合支援法の基礎的理解	障害者福祉制度の仕組みや運用について理解する。				
	9	介護実践に関わる諸制度	介護実践に必要とされる観点から、諸制度について基礎的知識を習得する。				
	10	社会保障制度の実践的理解	社会保障制度の仕組みや運用について理解し、制度の課題について考える。				
	11	介護保険制度の実践的理解	介護保険制度にかかわる組織と役割、介護福祉士が果たすべき役割を理解する。				
	12	障害者福祉及び障害者総合支援法の実践的理解	障害者福祉制度を運用する各組織の役割を理解し、その活用の仕方を理解する。				
	13	介護実践に関わる諸制度の理解	尊厳と自立に関わる、権利擁護、個人情報保護等、介護実践に関連する諸制度について理解する。				
	14	社会福祉にかかわる制度・政策の理解	様々な関連法制度を生活支援に活用する力をつける。				
	15	まとめ	評価、学習のまとめ				

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護の基本A	2	30	講義	必須	1年	通年	水石 晃
【授業の概要】 介護の基本となる理念を学び、介護福祉士としての倫理に基づき、介護を必要とする人を理解する。生活の継続性を支援するしくみ、利用者の尊厳の保持、自立支援介護の基盤となる知識・技術を習得する。授業資料に沿って講義形式で授業を進め、必要に応じてグループワークを実施する。							
【学習到達目標】 1 尊厳の保持や自立支援という介護の基本となる理念を理解し、専門職として必要な倫理観、基本的な考え方を学ぶ。 2 介護の歴史や介護問題の背景を理解し、複雑化、多様化する介護福祉士が置かれている社会状況を理解する。 3 地域や施設・在宅等、介護が必要とされる場の理解と介護福祉士の役割と機能について理解する。 4 介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。							
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況							
【テキスト（教科書・参考図書）】 1 テキスト（教科書） 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規） 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（中央法規） 2 参考図書							
【実務経験】 水石講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。社会福祉士として福祉事務所での実務経験あり。							
教 育 内 容	回数	授業テーマ及び内容			各授業のねらい		備考
	1	介護福祉士の基本となる理念			介護・介護福祉士に対するイメージを膨らませ、介護の基本理念と介護福祉士の基本的な考え方を理解する。		
	2						
	3	介護福祉の歴史		歴史的な観点から介護の意義とは何かを理解する。			
	4	介護福祉士の機能と役割		介護福祉士の役割と機能を支える、法律や制度について理解する。			
	5	介護福祉士の倫理		介護と人権、介護の持つ倫理性、介護福祉士の倫理性について理解する。			
	6			身体拘束と虐待の定義及び専門職としての職業倫理と法令遵守について学ぶ。			
	7	自立に向けた介護①		自立支援の具体的な考え方を理解し、意思決定を支える方法について学ぶ。			
	8	自立に向けた介護②		ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用する視点を学ぶ。			
	9	介護福祉を必要とする人の理解①		私たちの生活の理解、介護福祉を必要とする人の暮らしを理解する。			
	10	介護福祉を必要とする人の理解②		その人らしさ、生活ニーズの多様性について理解する。			
	11	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ		地域共生社会及びフォーマル・インフォーマルサービスについて理解する。			
	12	介護における安全の確保とリスクマネジメント		介護における安全の確保 リスクマネジメントとは何かについて学ぶ。			
	13	協働する多職種の機能と役割		多職種連携・協働の必要性及び目的と効果について学ぶ。			
	14	介護従事者の安全		働く人の健康や生活を守る法制度及び介護に従事することで生じやすい健康問題について学び、健康管理について理解する。			
15	まとめ		評価、学習のまとめ				

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護の基本B	4	120	演習	必須	1年	通年	田丸美咲、柳澤美佐子 水石 晃、勝野佐江子
【授業の概要】 介護を必要としている人たちの自立を支援するための環境整備や介護予防等の意義や方法を理解し、その人たちを支える社会の仕組みや、地域連携につながる支援制度について学ぶ。							
【学習到達目標】 1 ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーションの意義や方法について学ぶ。 2 介護を必要とする人の個性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できるようにする。 3 介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できるようにする。							
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況							
【テキスト（教科書・参考図書）】 1 テキスト（教科書） 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規） 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（中央法規） よくする介護を実践するためのICFの理解と活用（中央法規）							
【実務経験】 勝野講師：レクリエーションコーディネーターとして社会福祉協議会での実務経験あり。 田丸講師：看護師として病院での実務経験あり。 柳澤講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。 水石講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。							
教 育 内 容	回数	授業テーマ及び内容		各授業のねらい			備考
	1	介護を必要とする人の理解①-1		高齢者の心身、社会的状況について実践を通して理解する。			高齢者疑似体験計画
	2						高齢者疑似体験
	3						
	4						
	5	介護を必要とする人の理解②-1		様々な場における介護活動の場を理解する。			施設調べ
	6						
	7	介護を必要とする人の理解③-1		高齢者の生活史を理解する。			歌集づくり
	8						
	9	介護を必要とする人の理解①-2		疑似体験で学んだことをまとめ、発表することで、高齢者について理解を深める。			疑似体験まとめ、発表
	10						
	11	介護を必要とする人の理解②-2		様々な場における介護活動の場を理解する。			施設調べ
	12						
	13	介護を必要とする人の理解③-2		高齢者の生活史を理解する。			歌集づくり
	14						

回数		授業テーマ及び内容	各授業のねらい	備考	
教	15	介護を必要とする人の理解④-1	高齢者の生活史を理解する。	歴史	
	16	介護を必要とする人の理解⑤-1	認知症高齢者の症状等を理解し、適切な対応方法について学ぶ。	認知症サポーター	
	17	介護を必要とする人の理解④-2	高齢者の生活史を理解する。	歴史まとめ	
	18				
	19				
	20	介護を必要とする人の理解④-3	高齢者の生活史を理解する。	歴史 発表資料作成	
	21	介護福祉士の基本となる理念①-2	社会人としての基本的マナー、態度を学び、介護人材としてのキャリアパスを理解する。	コミュニケーションズアイ	
	22				
	23	地域生活の理解①	地域めぐり（すごろく製作）をして地域を理解する。	地域めぐり	
	24			まとめ	
25	地域生活の理解①-2				
26					
育	26	介護の仕事を理解する①	介護の仕事について理解する。	ジョブカフェ	
	27	介護の仕事を理解する②	介護の仕事、社会福祉協議会について理解する。	岡谷社協	
	28				
	29	介護を必要とする人の理解⑥-1	高齢者施設でのレクリエーションについて理解する。	勝野	
	30				
	内	31	介護を必要とする人の理解④-4	高齢者の生活史を理解する。	歴史 発表資料作成
		32	介護を必要とする人の理解④-5	高齢者の生活史を理解する。発表資料に基づき、プレゼンテーションの方法を学ぶ。回想法について理解を深め、実践力を養う。	回想法
		33			
		34			
		35			
36		介護を必要とする人の理解⑥-1	ケアコンについて（企画）		
37		介護を必要とする人の理解⑤-3	認知症カフェに参加し、利用者と交流する。	準備	
38				実践	
39					
容		40	介護を必要とする人の理解⑥-2	ケアコンについて（発表・撮影）	
	41				
	42				

回数		授業テーマ及び内容	各授業のねらい	備考
	43	自立に向けた介護②	ICFの考え方、活用について理解する。	大谷
	44			
	45			
	46			
	47	介護を必要とする人の理解⑥-3	ケアコンについて（編集）	
教 育 内 容	48	介護を必要とする人の理解⑦	童謡を歌い、年代を超えて交流する。	準備
	49			
	50			
	51	自立に向けた介護①-1	自立に向けた生活を支えるための福祉用具の活用について理解する。	介護センター花岡見学
	52			
	53	自立に向けた介護①-2	自立に向けた生活を支えるための福祉用具の活用について理解する。	
	54			
	55	介護を必要とする人の理解⑥-2	高齢者施設でのレクリエーションについて理解する。	勝野
	56			
	57	自立に向けた介護①-3	福祉機器展に参加し福祉用具について理解を深める。	
	58			
	59	介護の仕事を理解する③	社会人として働く心構えができる。	マイナビ
	60	介護を必要とする人の理解⑨	まとめ	

教科目名	単位数	時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護の基本C	2	30	講義	必須	1年	通年	金 日秀 松山 徹
【授業の概要】 介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。							
【学習到達目標】 1 多職種協働における介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できるようにする。 2 チームアプローチの意義、目的、具体的な展開をととして、多職種連携の意義、課題を理解する。 3 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。 4 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。							
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況							
【テキスト（教科書・参考図書）】 1 テキスト（教科書） 介護福祉士養成講座 1 人間の理解（中央法規） 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ（中央法規） 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ（中央法規） 2 参考図書							
【実務経験】 金 講師：認定プロコーチ、キャリアコンサルタントとして実務経験あり。 松山講師：理学療法士として病院での実務経験あり。							
教 育 内 容	回数	授業テーマ及び内容		各授業のねらい			備考
	1	介護従事者の安全		介護者の腰痛予防の原則や考えを理解して、対応方法を身に着ける。			松山
	2						
	3	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎①		必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能について			金
	4						
	5	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎②		組織におけるコミュニケーションについてOJT、コーチング、スーパービジョン等			金
	6						
	7	介護実践におけるチームマネジメント①		人材の育成や活用等の人財管理についてリーダーシップ、フォローアップシップ、PDCAサイクル等			金
	8						
	9	介護実践におけるチームマネジメント②		自己研鑽のためのチームマネジメント アサーション等			金
	10						
	11						金
	12						
	13	介護実践におけるチームマネジメント③		介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。			金（まとめ）
	14	介護の総理解⑦		労働に関する法律を理解する。			松山
	15						

9

教	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
	17	介護における家族とのコミュニケーション	利用者と家族の意向を調整する技法を理解する。 演習、ロールプレイを通して、利用者・家族とのコミュニケーションのポイントを習得する。	藤森
	18			
	19			
	20			
育 内 容	21	介護を必要とする人とのコミュニケーション③	介護における援助的コミュニケーションについて理解する。	有賀
	22			
	23	介護におけるチームのコミュニケーション①	介護における記録の意義、目的について理解し、その管理、共有化、活用について学ぶ。	
	24			
	25	介護におけるチームのコミュニケーション②	組織における「ほうれんそう」の重要性を理解する。	
	26			
	27	介護におけるチームのコミュニケーション③	介護におけるチームのコミュニケーションとは何か、その目的について学ぶ。	
	28			
	29	会議の意義・目的、方法	模擬会議の実施。会議を行う場合の運営方法と留意点について理解する。	
	30			

11

教 育 内 容	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
	15	生活支援の理解③	日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援、介護予防について理解する。	宮嶋
	16			
	17	安全に暮らすための生活環境	住宅内における日常安全の重要性と対応策について理解する	鎌田
	18	多職種との連携	居住環境の整備における多職種連携の必要性	
	19	生活支援の理解④	病院、施設におけるリハビリテーションについて理解する。	宮嶋
	20			
	21	生活空間と介護、居住環境のアセスメント	高齢者・障害者の住環境について、総合的理解を深める。	鎌田(まとめ)
	22	生活支援の理解⑤	地域及び在宅におけるリハビリテーションについて理解する。	宮嶋
	23			

教科目名		単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
生活支援技術B		4	120	演習	必須	1年	通年	南端裕江 柳澤美佐子
【授業の概要】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を身につける。								
【学習到達目標】 1 介護の基本的技術とその原理を身につけると共に、介護技術の根拠を理解する。 2 対象者の能力を発揮しながら自立に向けた生活支援技術の基本を習得する。 3 介護に適した各種福祉機器及び住設備機器について、適切な使用方法を身につける。								
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況								
【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 介護福祉士養成講座6、7 生活支援技術Ⅰ、Ⅱ (中央法規) 2 参考図書								
【実務経験】 南端講師:介護福祉士として、高齢者施設での実務経験あり。 柳澤講師:介護福祉士として、高齢者、障害者施設での実務経験あり。								
教 育 内 容	回数	授業内容		各授業のねらい			備考	
	1	介護技術の基本とマナー ボディメカニクスの理解		授業の進め方、介護技術の基本とマナーを理解する。ボディメカニクスの原理を理解する。				
	2							
	3							
	4	自立に向けた居住環境の整備①		衛生管理の意義を理解する。 ベッドメイキングの手法を習得する。				
	5							
	6	自立に向けた移動の介護① (ベッド上での体の移動、体位変換)		実践を通してボディメカニクスと介護の原則を理解する。				
	7							
	8							
	9	自立に向けた移動の介護② (起居介助、立ち上がり)						
	10	口腔の清潔		口腔の構造と機能を理解する。 口腔ケアの必要性を理解し、手法を習得する。			南端	
	11							
	12	自立に向けた身じたくの介護①		身じたくの意義を理解する。 衣服着脱の介助方法を理解する。				
	13	自立に向けた移動の介護③ (車椅子での移動)		車椅子の基本構造と使用法を理解し、介助法を身につける。				
	14							
	15	自立に向けた食事の介護		食べることのメカニズムを理解する。 食事介助体験から、介助の手法を習得する。 誤嚥予防について理解する。			南端	
	16							
	17							
	18	自立に向けた身じたくの介護②		身じたくの意義を理解する。 衣服着脱の介助方法を理解する。				
	19	自立に向けた食事の介護②		食べやすくする工夫 飲み込みやすい食事について理解する				
	20							
	21	自立に向けた排泄の介助①		排泄のメカニズムと排泄障害について理解する。			南端	
	22							
	23	自立に向けた排泄の介助②		排泄補助機器について理解し、排泄介助の手法を習得する。			南端	
	24							
	25	生活支援の理解①		事例を通して適切な介助方法を理解し習得する。 (高齢者施設実習まとめ)				
	26							
	27	自立に向けた入浴・清潔保持の介助①		清潔保持の必要性と意義について理解する			南端	
	28							

教科目名		単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
生活支援技術C		3	90	演習	必修	1年	通年	藤森憲司 藤村瑞穂 日暮幸江 田丸美咲
1 障害特性に応じ、本人主体の生活が継続できるよう、基本的知識(医学的・心理的側面)から理解する。 2 障害特性に応じ、根拠に基づいた介護実践をができるための知識、技術を習得する。								
【学習到達目標】 1 対象者の障害特性に応じた、基本的知識(医学的・心理的側面)の知識・技術・態度を習得する。 2 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための、障害特性に応じた具体的な支援内容・方法・技術を理解し習得する。 3 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解できる。								
【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況								
【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ (中央法規) しくみと病気がわかるからだの事典(成美堂) 2 参考図書								
【実務経験】 藤森講師 : 薬剤師として薬局での実務経験あり。 日暮講師 : 看護師として病院での実務経験あり。 藤村講師 : 作業療法士として病院での実務経験あり。 田丸講師 : 看護師として病院での実務経験あり。								
	回数	授業内容	各授業のねらい				備考	
教 育 内 容	1	自立に向けた生活支援の理解 生活支援技術Ⅰー①	視覚障害に応じた介護 視覚障がい者体験(屋内白杖体験)				田丸	
	2	自立に向けた生活支援の理解	視覚障害に応じた介護				田丸	
	3	障害に応じた生活支援技術Ⅰー② 視覚障害	視覚障がい者体験(屋外白杖体験) 諏訪市社会福祉協議会で講話 ユニバーサルデザイングッズ、ユニバーサルデザインについて				田丸	
	4	障害に応じた生活支援技術Ⅲー①	肢体不自由(脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ				日暮	
	5	障害に応じた生活支援技術Ⅲー②	内部障害 心臓機能障害(虚血性心疾患、心不全等)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。				日暮	
	6	自立に向けた生活支援の理解	視覚障害に応じた介護				田丸	
	7	障害に応じた生活支援技術Ⅰー③ 視覚障害	視覚障がい者当事者による講話				田丸	
	8	障害に応じた生活支援技術Ⅲー③	内部障害 呼吸機能障害(閉塞性肺疾患、機関紙喘息、肺炎等)に応じた介護について、生活の理解・自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。				日暮	
	9	自立に向けた生活支援の理解	聴覚障害に応じた介護				田丸	
	10	障害に応じた生活支援技術Ⅱー① 聴覚障害	聴覚障がい者当事者による講話				田丸	

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	10	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－④	内部障害 腎臓機能障害(慢性腎不全、に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	日暮
	11	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－①	精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ(精神疾患概論)	藤村
	12	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑤	内部障害 膀胱・直腸機能障害(消化器・尿路ストマ)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	日暮
	13	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－②	精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ(統合失調症)	藤村
	14	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑥	内部障害 小腸機能障害(クローン病、バーチェット病等)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	日暮
	15	人生の最終段階における介護	看取り支援	田丸
育	16			
	17	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅱ－②	聴覚障害に応じた介護 手話講座 基礎編	田丸
	18	聴覚障害		
	19	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅲ－①	内部障害に応じた介護 肢体不自由者当事者による講話	田丸
	20	内部障害		
	21	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－③	精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ (気分障害・アルコール依存症)	藤村
内	22	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑦	内部障害 HIVによる免疫機能障害)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	日暮
	23	障害に応じた生活支援技術Ⅲ－⑧	内部障害 肝臓機能障害(肝炎、肝硬変)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	日暮
	24	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－④	精神科デイサービスを見学、交流し、実際の精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ DVDを通し精神障害者について考える	藤村
	25			
	26	障害に応じた生活支援技術Ⅳ－⑤	精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ(強迫神経症、PTSD等)	藤村
容				

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	27	障害に応じた生活支援技術Ⅲ一⑨	高次脳機能障害に応じた介護に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	日暮
	28	障害に応じた生活支援技術Ⅳ一⑥	精神科デイサービスを見学、交流し、実際の精神障害者の生活の理解、自立に向けた介護の留意点を学ぶ DVDを通し精神障害者について考える	藤村
	29			
	30	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ一① 介護を必要とする人の薬の基礎知識	薬の種類、飲み方、保管方法等を理解する。	藤森
	31	自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅲ一② 知的・発達障害	知的障害・発達障害者の生活の理解 自立に向けた介護の留意点を学ぶ 当事者交流	田丸
	32			
	33	障害に応じた生活支援技術Ⅳ一⑦	精神障害者の生活の理解・自立に向けた介護の留意点を学ぶ(評価・ケアプランの立て方など)	藤村
	34	障害に応じた生活支援技術Ⅲ一⑩	難病 筋委縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	日暮
	35	障害に応じた生活支援技術Ⅳ一⑧	精神障害まとめ	藤村
	育	36	障害に応じた生活支援技術Ⅲ一⑪	難病 パーキンソン病に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。
37		自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ一② 介護を必要とする人の薬の基礎知識	薬の種類、飲み方、保管方法等を理解する。	藤森
38		障害に応じた生活支援技術Ⅲ一⑫	難病 関節リウマチに応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	日暮
39		障害に応じた生活支援技術Ⅲ一⑩	難病 筋委縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護について、生活の理解、自立に向けた介護の支援方法・留意点を学ぶ。	日暮
40		自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅱ一③ 聴覚障害	聴覚障害に応じた介護 手話講座 応用編	田丸
41				
42		自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ一③ 介護を必要とする人の薬の基礎知識	認知症の人・ターミナル期の人々の薬の知識を学ぶ。	藤森
43		自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ一④ 介護を必要とする人の薬の基礎知識	薬のメカニズムを理解する。	藤森
44		自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅲ	自立に向けた生活支援の理解まとめ	田丸
45		自立に向けた生活支援の理解 障害に応じた生活支援技術Ⅵ一⑤ 介護を必要とする人の薬の基礎知識	薬のまとめ	藤森

教科目名		単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
生活支援技術D		1	45	実習	必須	1年	通年	石原三妃 雨宮邦子
【授業の概要】 ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた食生活及び衣生活の援助技術を身につける。 資料に沿って講義と演習により授業を進める。								
【学習到達目標】 1 快適な衣生活を支える知識、技術を習得する。 2 生活の継続性を支援する観点から、個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識や技術を習得する。								
【成績評価方法】 1 筆記試験結果、レポートによる評価 2 授業態度 3 出欠席状況								
【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ (中央法規) 2 参考図書 食品成分表								
【実務経験】								
教 育 内 容	回数	授業内容			各授業のねらい			備考
	1	自立に向けた家事の介護①			食中毒予防のための食品衛生や食材購入について学ぶ。 家事援助の意義と目的、食事・栄養の重要性について理解する。 食文化、食生活の変化について及び高齢者、障害者の調理栄養について理解する。			石原
	2							
	3							
	4	自立に向けた食事の介護②			基本的な調理技術を習得する。 献立作りのための栄養素の理解する。 高齢者の身体機能と調理の工夫を考える。			
	5							
	6							
	7	自立に向けた食事の介護③			基本的な調理技術を習得する。 病気と食事、治療食について理解を深める。			
	8							
	9							
	10	自立に向けた身じたくの介護①			被服の役割と機能について理解する。			雨宮
	11							
	12							
	13	自立に向けた身じたくの介護②			素材の種類と性能について理解する。			
	14							
	15							
	16	自立に向けた家事の介護③			掃除、ゴミ捨て、衣類、寝具の衛生管理について考える。			
	17							
	18							
	19	自立に向けた家事の介護④			高齢者、障害者の身体特性、生活にあった被服について学ぶ。 被服の着脱の工夫について理解する。			
	20							
	21							
	22	自立に向けた家事の介護⑤			製作実習により、手縫いの方法、ミシンの操作方法、アイロンのかけ方を習得する。			
23								

19

	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護過程C	3	90	講義	必修	1年	前期	田丸 美咲 柳澤美佐子 水石 晃 清水 満子 南端 裕江

【授業の概要】

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践の習得に向けて、入居施設において、個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする。またチームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解できるようにする。

【学習到達目標】

- 1 介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であることを理解できる。
- 2 利用者の生活の質の向上にむけて、生活上の目標を達成していくために、必要な支援の在り方を、演習を通じて理解できる。
- 3 介護過程とは「なぜこのような支援が必要なのか」「なぜこのように行うのか」など、根拠となる思考過程と的確な記録が必要であることが理解できる。
- 4 介護過程とは利用者にかかわるすべての関係職種が共通の目標をもち、介護職チーム及び他職種との協働・連携を図ることが大切であることが理解できる。カンファレンスの意義・目的を理解できる。

【成績評価方法】

- 1 過程C演習でびき評価表による
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
介護福祉士養成講座9 介護過程 (中央法規)
- 2 参考図書

【実務経験】

田丸講師：看護師として病院での実務経験あり。
柳澤講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。
水石講師：介護福祉士として施設での実務経験あり。
清水講師：介護福祉士として高齢者施設での実務経験あり。
南端講師：介護福祉士として高齢者施設での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教 育 内 容	1	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解①	学外演習に向けてのオリエンテーション	学内
	2	介護過程の展開の理解	入居施設において、個別の事例を受け持ち、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 アセスメント（意図的な情報収集、分析、ニーズの明確化、課題の抽出）	施設で学外演習
	3	介護過程の実践的理解②		
	4	介護過程の実践的理解③		
	5	介護過程の実践的理解④		
	6	介護過程の実践的理解⑤		
	7	介護過程の実践的理解⑥		
	8	介護過程の実践的理解⑦		
	9	介護過程の実践的理解⑧		
	10	介護過程の実践的理解⑨		
	11	介護過程の実践的理解⑩		
教 育 内 容	12	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑥	ここまでの展開した介護過程について振り返り、課題を整理し、計画立案（目標共有）	学内
	13	介護過程の展開の理解 介護過程の実践的理解⑦	入居施設において受け持った事例について、介護過程の一連の展開を行い、実践を通して介護過程の展開を理解する。 実施（soap記録）、評価（評価の視点、再アセスメント、修正）、プロセスレコード	施設で学外演習
	14	介護過程の実践的理解②		
	15	介護過程の実践的理解③		
	16	介護過程の実践的理解④		
	17	介護過程の実践的理解⑤		
	18	介護過程の実践的理解⑥		
	19	介護過程の実践的理解⑦		
	20	介護過程の実践的理解⑧		
	21	介護過程の実践的理解⑨		
	22	介護過程の実践的理解⑩		
	23	介護過程の実践的理解⑪		
教 育 内 容	24	介護過程とチームアプローチ	多職種連携における介護過程展開を展開する意義、目的の理解 施設でカンファレンスの実施	
	25	介護過程の実践的理解まとめ	展開した介護実践について、まとめる。	学内
	26			

教科目名		単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
介護総合演習		2	60	演習	必須	1年	通年	田丸美咲 柳澤美佐子 水石 晃
【授業の概要】 各教科目で学ぶ知識と技術を統合し、介護実践の科学的探究を通して介護実習での学びを深める。 各実習を振り返り、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習の場とする。 各実習の学びについてグループワークを実施し、学びのまとめ、発表をする。 総合実習で担当した対象者について事例研究を行い、資料作成や発表をすることで互いに学び合う。								
【学習到達目標】 1 実習の意義や目的について理解し、各教科目で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる。 2 実習を振り返り、知識と技術の統合化を図るとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての姿勢を身につける。 3 事例研究の意義とその方法について理解し、質の高い介護実践やエビデンス構築の能力を身に付ける。								
【成績評価方法】 1 課題提出状況 2 授業態度 3 出欠席状況								
【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 介護総合演習(中央法規) 介護実習のてびき 2 参考図書 各種専門誌(必要に応じて)								
【実務経験】 田丸講師:看護師として病院での実務経験あり。 柳澤講師:介護福祉士として施設での実務経験あり。 水石講師:介護福祉士として施設での実務経験あり。								
教 育 内 容	回数	授業内容			各授業のねらい			備考
	1	介護実習とは 実習の意義、目的			実習の意義、目的を理解する。			
	2	高齢者施設実習のオリエンテーション			高齢者施設実習の目的、実習内容を理解する。			
	3	高齢者施設実習事前確認			実習先の概要や実習方法を理解する。 高齢者施設実習の目的、実習内容を理解する。			
	4	知識と技術の統合 (高齢者施設実習まとめ)			実習を振り返り、自己の課題を明確にする。			
	5							
	6	地域生活支援実習オリエンテーション			地域生活支援実習の目的、実習内容を理解する。			
	7	地域生活支援事前確認			実習先の概要や実習方法を理解する。 地域生活支援実習の目的、実習内容を理解する。			
	8	知識と技術の統合 (地域生活支援実習まとめ)			地域生活支援実習での学びをまとめ、今後の課題を確認する。			
	9							
	10	施設実習オリエンテーション			施設実習の目的、実習内容を理解する。			
	11	施設実習事前確認			実習先の概要や実習方法を理解する。 施設実習の目的、実習内容を理解する。			

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教 育 内 容	12	知識と技術の統合 (施設実習中間まとめ)	介護過程におけるアセスメント、計画立案の 実際を学ぶ。 具体的な記録の方法を学び実践力を身に付 ける。	
	13			
	14			
	15			
	16	知識と技術の統合 (施設実習まとめ)	実習での学びをまとめ、今後の課題を確認す る。 担当事例の介護過程展開のまとめをする。	
	17			
	18	知識と技術の統合 (施設実習要約発表)		
	19			
20	総合実習オリエンテーション	総合実習の目的、実習内容を理解する。		
21	事例研究オリエンテーション	事例研究の意義、目的を理解する。		
	22	総合実習事前確認	実習先の概要や実習方法を理解する。 総合実習の目的、実習内容を理解する。	
	23	知識と技術の統合 (総合実習まとめ)	総合実習での学びをまとめ、今後の課題を確認する。	
	24			
	容	25	知識と技術の統合 (1年間の実習のまとめ)	知識や技術を介護実践と結びつけて統合さ せ、自己の課題を明確にする。
26				
27		介護実践の科学的探究	実践研究の意義を理解し、介護実践のエビ デンス構築について考える。 実践研究の結果を効果的にまとめ、資料作 成を含めた理解しやすいプレゼンテーション について学ぶ。 実践研究の発表。	
28				
29				
30				

24

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
こころとからだのしくみ	2	30	講義	必修	1	通年	松 山 徹 花野 希久美
	1	30	演習				

【授業の概要】

介護に必要な観察力、判断力の根拠となるこころとからだのしくみの基礎を学ぶ。その知識の基に、利用者の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。

【学習到達目標】

- 1 介護実践に必要な観察力・判断力の基礎となるからだのしくみの基礎的な根拠・知識を理解する。
- 2 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。
- 3 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を理解する。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 小テスト結果
- 3 授業態度
- 4 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ (中央法規)
しくみと病気がわかるからだの事典 (成美堂出版)
- 2 参考図書

【実務経験】

松山講師：理学療法士として病院での実務経験あり。
花野講師：看護師として病院での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	形式	備考
教	1	こころとからだのしくみⅠ こころのしくみの理解 ①	「健康」「こころ」とは何か。 「健康な状態」とはどんなことか理解する。 人間の欲求、自己実現と尊厳、脳・認知・学習・ 記憶・適応のしくみ	講義	花野
	2				
育	3	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ① (骨格系解剖生理①)	身体各部位の名称、働きを理解する。	講義	松山
	4	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ②	身体各部位の名称 (神経系、感覚器、内臓、呼吸器、循環器、消化器)	演習	花野
内	5				
	6	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ③ (骨格系解剖生理②)	身体各部位の名称、働きを理解する。	講義	松山
	7	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ④	身体各部位の名称 (生殖器・内分泌、血液・体液・リンパ)	講義	花野
	8			演習	
容	9	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ⑤ (筋系解剖生理①)	身体各部位の名称、働きを理解する。	講義	松山
	10	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ⑥ (筋系解剖生理②)	身体各部位の名称、働きを理解する。	講義	松山
	11	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ⑦	生命を維持するしくみ バイタルサインの観察や測定方法を理解し、実際に経験する。	演習	花野
	12				

	回数	授業内容	各授業のねらい	形式	備考
教	13	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解 ⑧ (神経系解剖生理、ボディメカニクス、 関節可動域)	身体の構造と機能的な働きについて力学的に 理解する。	講義	松山
	14	こころとからだのしくみⅡ 移動に関連したこころとからだのしくみ	移動の仕組み、心身の機能低下が移動に及ぼ す影響、変化の気づきと対応について理解す る。	講義	花野
	15			演習	
	16	こころとからだのしくみⅡ 身じたくに関連したこころとからだのしく み	身じたくに関連した仕組み心身の機能低下が 身支度に及ぼす影響、変化の気づきと対応に ついて理解する。	講義	花野
	17			演習	
	18	こころとからだのしくみⅡ 食事に関連したこころとからだのしくみ	食事に関連したこころとからだのしくみ、心身の 機能が食事に及ぼす影響、変化と気づきと対 応について理解する。	講義	花野
	19			演習	
	20	こころとからだのしくみⅡ 入浴・清潔保持に関連したこころとから だのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ、心身の機能低下が入 浴・生活保持に及ぼす影響、変化の気づきと対 応について理解する。	講義	花野
	21			演習	
	22	こころとからだのしくみⅡ 排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄の仕組み、心身機能低下が排泄に及ぼす 影響、変化の気づきと対応について理解する。	講義	花野
内	23			演習	
	24	こころとからだのしくみⅡ 休息・睡眠に関連したこころとからだのし くみ	睡眠のしくみ、心身機能低下が睡眠に及ぼす 影響、変化の気づきと対応について理解する。 中間試験による学びの確認をする。	講義	花野
	25			演習	
	26	人生の最終段階のケアに関連したここ ろとからだのしくみ	「死」を理解する。終末期から「死」までの変化と 特徴。「死」に対する心の理解について学ぶ。 医療職との連携ポイントについて理解する。	講義	花野
	27			演習	
	28	薬剤の使用行為と創の処置などの基礎 知識	介護職が実施できる処置についてからだの仕 組みをふまえて理解する。	演習	花野
	29				
	30	まとめ	まとめ	講義	花野
容					

教科目名		単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
発達と老化の理解		2	30	講義	必修	1年	通年	松本宙明 矢崎久
【授業の概要】								
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響について理解する。またライフサイクルの特徴に応じた生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を学習する。								
【学習到達目標】								
1 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。								
2 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられう疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解する。								
【成績評価方法】								
1 筆記試験結果								
2 授業態度								
3 出欠席状況								
【テキスト(教科書)・参考図書】								
1 テキスト(教科書)								
介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 (中央法規)								
人体のしくみと病気(西東社)								
2 参考図書								
【実務経験】								
松本講師:医師として、病院での実務経験あり。								
矢崎講師:臨床心理士、精神保健福祉士として、病院での実務経験あり。								
教 育 内 容	回数	授業内容			各授業のねらい			備考
	1	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点①			高齢者に多い疾患と症状を理解する。 脳神経系疾患			松本
	2	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点②			高齢者に多い疾患と症状を理解する。 循環器疾患			松本
	3	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点③			高齢者に多い疾患と症状を理解する。 呼吸器疾患			松本
	4	人間の成長と発達の基礎的知識①			発達段階と発達課題			矢崎
	5	人間の成長と発達の基礎的知識②			成長・発達の考え方(スキヤモン)、成長・発達に影響する要因(成熟優位説、学習説、転換説等)			
	6	老年期の特徴と発達課題			老年期の定義、老年期の発達課題、老年期をめぐる今日的課題			
	7	老化にともなうこころとからだの変化と生活			老化にともない身体的・心理的・社会的な変化と生活への影響、老化に伴う身体的変化と生活への影響			松本
	8	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点④			高齢者に多い疾患と症状を理解する。 消化器疾患			
	9	発達段階別にみた特徴的な疾病や障害①			発達理論(ピアジェ、エリクソン等)、発達段階と発達課題、身体的・心理的・社会的機能の発達、心理療法(コラーージュ、バウムテスト等)			矢崎
	10	発達段階別にみた特徴的な疾病や障害②						
	11	高齢者と健康			健康21、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジング等 高齢者の症状・疾患の特徴(廃用症候群、老年症候群)			松本
	12							
	13	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点⑤			高齢者に多い疾患と症状を理解する。 腎・泌尿器疾患			松本
	14	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点⑥			高齢者に多い疾患と症状を理解する。 内分泌・代謝疾患			松本
15	高齢者の症状・疾患と生活上の留意点⑦			高齢者に多い疾患と症状を理解する。 悪性新生物、感染症、皮膚・感覚器疾患			松本	

長野県福祉大学		教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
		認知症の理解	2	30	講義	必修	1	通年	八田 桂子
			1	30	演習				
【授業の概要】									
認知症の本質や認知症の人の心理状態、症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できる知識を持つ。また認知症の有無にかかわらず重要な自立支援・自律支援尊厳の保持について考える。また本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解する。									
【学習到達目標】									
1 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会環境について理解する。									
2 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化を理解し、生活支援の根拠となる知識を理解する。									
3 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、本人主体の認知症ケアの実践につなげる。									
4 認知症の人のサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解する。									
5 認知症の人を支える家族の課題を理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐ。									
【成績評価方法】									
1 筆記試験結果									
2 授業態度									
3 出欠席状況									
【テキスト(教科書)・参考図書】									
1 テキスト(教科書)									
介護福祉士養成講座13 認知症の理解 (中央法規)									
実践パーソン・センタード・ケア(株式会社ワールドプランニング)									
2 参考図書									
【実務経験】									
認知症ケア専門士、長野県認知症介護指導者、介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉士として、高齢者施設等での実務経験あり。									
教 育 内 容	回数	授業内容			各授業のねらい			備考	
	1	認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何か			認知症の定義、生活障害などの症状の全体像を理解する			講義	
	2							演習	
	3	脳のしくみ			脳の構造・機能を踏まえた病理的な理解 認知症と間違えられやすい症状 病気と老化の理解			講義	
	4							演習	
	5	認知症の人の心理			認知症の人の心理と症状 生活障害の理解			講義	
	6							演習	
	7	認知症の症状・診断・治療・予防①			中核症状の理解、生活障害の理解			講義	
	8							演習	
	9	認知症の症状・診断・治療・予防②			B P S Dの理解、診断と重症度			講義	
10	演習								

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	11	認知症の症状・診断・治療・予防③	原因疾患別の理解とケアの実際 認知症の治療薬	講義
	12			演習
	13	認知症の症状・診断・治療・予防④	認知症の予防の考え方と実際	講義
	14			演習
	15	認知症ケアの歴史と理念①	認知症の人を取り巻く状況、理念と視点を理解する	講義
	16			演習
	17	認知症ケアの歴史と理念②	認知症当事者の視点からみえるもの	講義
	18			演習
	19	認知症ケアの実際①	認知症の人に適した生活環境と支援 パーソンセンタードケアとアセスメント	講義
	20			演習
育	21	認知症ケアの実際②	認知症の人のコミュニケーションや食事、排泄、入浴などのケアの実際	講義
	22			演習
	23	認知症ケアの実際③	終末期ケアとは何か 認知症の人の終末期医療と介護連携	講義
	24			演習
	25	介護者支援	家族の理解、レスパイトケア 介護福祉職のモラル、チームケア	講義
	26			演習
	27	認知症の人の地域生活支援	介護保険制度 新オレンジプラン 地域包括ケアシステム 多職種連携について	演習
	28			演習
	29	解説・まとめ	これからの認知症ケア、介護福祉士の果たす役割 試験による授業評価を行い、学びの集大成とする	講義
	30			講義

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
障害の理解	1	30	演習	必修	1	前期	田丸 美咲

【授業の概要】

介護と医療の連携をふまえた実践力を向上するために、障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人の生活支援について基礎的な知識を習得する学習する。

【学習到達目標】

- 1 障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する。
- 2 障害ごとの基礎的理解と特性をふまえた生活とそれに応じた支援を習得する。
- 3 障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解する。
- 4 障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や多職種連携・協働による支援の基礎的知識を理解する。
- 5 障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援を理解する。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
介護福祉士養成講座14 障害の理解 (中央法規)
- 2 参考図書

【実務経験】

看護師として、病院での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
教	1	障害の基本的理解 I 障害の概念	障害のとらえ方、障害別数、障害の定義、障害の種類、原因と特性、ICIDHからICFへの変遷	
	2	障害の基本的理解 II 障害福祉の基本理念	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン等、国際障害者年等	
	3	障害の基本的理解 III 障害福祉の現状と施策	障害者の就労(ジョブコーチ、リワークプログラム)成年後見制度、障害に関わる制度、法律	
	4	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 I 障害の心理的側面	人間の欲求、適応機制、障害の受容過程	
	5	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 II 視覚障害	視覚障害のある人の生活について理解する。	
育	6	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解IV 聴覚・言語障害	聴覚・言語障害のある人の生活について理解する。	
	7	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解V 肢体不自由	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活について理解する。	
	8	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解VI 重複障害・重症心身障害	重複障害・重症心身障害のある人の生活について理解する。	
内 容	9	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解VI 知的障害	知的障害のある人の生活について理解する。	
	10	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解VII 精神障害	精神障害のある人の生活について理解する。	
	11	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解VIII 発達障害	発達障害のある人の生活について理解する。	
	12	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解IX 難病	難病のある人の生活について理解する。	
	13	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援	障害のある人のライフステージの特性と障害の影響	
	14	連携と協働	地域におけるサポート体制、多職種連携と協働	
	15	家族への支援	家族の障害の受容の過程、レスパイト、家族会、当事者団体等	

教科目名		単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
医療的ケア I (概論)		1	15	講義	必修	1年	通年	田丸 美咲
医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるため、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。								
【学習到達目標】								
1 医療的ケアとは何か、なぜ介護福祉士が行うのか理解できる 2 個人の尊厳を守り安全な療養生活を送れるように、健康状態の把握や感染予防の必要性が理解できる								
【成績評価方法】								
1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況								
【テキスト(教科書)・参考図書】								
1 テキスト(教科書) 介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規) 医行為でない行為がすぐできるイラスト学習帳(エクスナレッジ) 2 参考図書								
【実務経験】								
看護師として、病院での実務経験あり。								
教 育 内 容	回数	授業内容			各授業のねらい			備考
	1	医療的ケア実施の基礎			医療的ケアを実施するための基本的な心構えを理解できる。			
	2	人間と社会			個人の尊厳と自立について理解し、医療の倫理や利用者や家族の気持ちを尊重したケアのあり方について理解できる。			
	3	保健医療制度とチーム医療			保健医療や介護保険に関する制度等を理解し、チーム医療について理解できる。			
	4	安全な療養生活			リスクマネジメントの必要性和ヒヤリハットの報告が予防につながる事が理解できる。			
	5	感染予防と清潔保持①			感染予防の基礎知識を学び理解できる正しい手洗い方法、手袋の装着方法等が理解できる。			
	6	感染予防と清潔保持②			療養環境の清潔保持と排泄物、吐物等の処理方法、消毒方法、滅菌と消毒について理解できる。			
	7	健康状態の把握			バイタルサインの測定方法が理解でき、急変時と対応について理解できる。			
	8	まとめ			医療的ケア実施の基礎が理解できる。			

33

教科目名	単位数	総時間数	授業形態	必修・選択別	開講学年	開講時期	担当講師名
医療的ケアⅣ (演習評価)	1	15	講義	必修	1年	通年	田丸美咲 渡辺邦子 横川孝子 宮坂さゆり 大津小百合 花野希久美

【授業の概要】

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるため、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

【学習到達目標】

- 1 医療的ケアにおいて、喀痰吸引・経管栄養に関して、正確で安全な方法を習得できる
- 2 喀痰吸引・経管栄養の演習評価基準に達することができる
- 3 救急蘇生法が習得できる

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)
- 2 参考図書

【実務経験】

田丸講師：看護師として病院での実務経験あり。
渡辺講師：看護師、呼吸療法認定士として病院での実務経験あり。
横川講師：看護師として病院での実務経験あり。
宮坂講師：看護師として病院での実務経験あり。
大津講師：看護師として病院での実務経験あり。
花野講師：看護師として病院での実務経験あり。

	回数	授業内容	各授業のねらい	備考
	1	演習		
教 育	2	経管栄養 ・胃ろう 5回以上 ・経管栄養 5回以上	経管栄養で、最終評価で全項目が確実に実施できる。	
	3			
	4	救急蘇生法	救急蘇生法を習得でできる。	
内 容	5			
	6	演習		
	7	喀痰吸引 ・口腔吸引 5回以上 ・鼻腔吸引 5回以上 ・気管カニューレ 5回以上	喀痰吸引で、最終評価で全項目が確実に実施できる。	
	8			